

(2)山村における青年会との交流と学習

—青年会・高校生・都市部大学生の協働による新たなムラづくりの挑戦—



平成28-29年度新潟県大学生の力を活かした集落活性化事業の支援を受けて実施しました

新潟県阿賀町室谷地区の概要

- 人口:115人、世帯数:29世帯、高齢化率:35.6%
- 集落の紹介:御神楽岳入口に位置する室谷地区。周りを山々に囲まれ、町内でもトップクラスの豪雪地帯で、集落内の紫光山洞雲寺は、この地の教育の源であったと伝えられています。
- 室谷地区に暮らす住民の絆は強く、季節ごとの行事等、地区全体で協力し合いながら集落の発展と活性化に努力しています。



集落の課題

- 過疎化高齢化によって集落活動が減退している状況にある。そのため、山村地域ならではの自然・文化的資源を十分に管理・活用することができておらず、特に次世代の人材育成・継承といった点で大きな懸念材料を抱えている。
- 一方で若手構成員を中心にした青年会活動が今も存続しており、近年新たな地区行事を企画・実施するなど集落活性化に向けた努力を続けている。



活性化に向けた集落からの要望

- 外との交流により、青年会活動の活性化を基軸にしなが、地区全体の活性化を図りたい。
- 地域の日常の暮らしの中にある魅力(ひと・もの・こと)を基盤としなが、外部の若者や青年会など地域の若者が中心となった集落活動を促進させたい。



研究の目的

青年会などの若手世代層が基軸に、集落の地域資源の有効活用を図りながら、

①交流活動(交流産業)

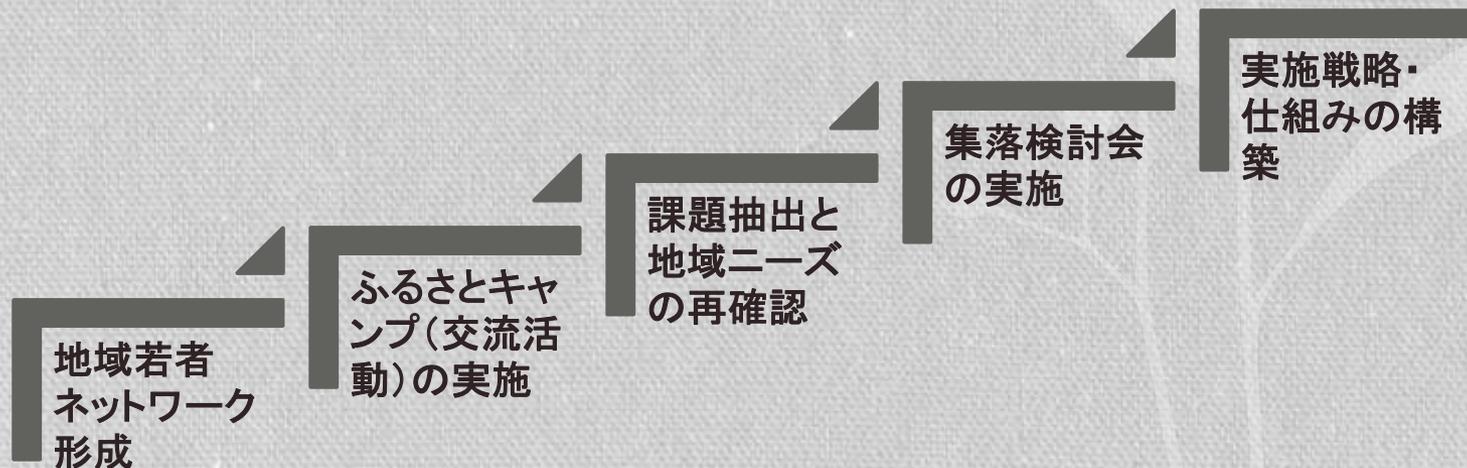
②担い手育成活動

の2活動を相乗的に促進する方策や仕組みについて提案し、活性化の取組みとして集落へ実装する。



研究方法とプロセス

- 青年会・高校生・大学生協働による地域学習・実践プログラム「室谷ふるさとづくりキャンプ」(若者交流活動)試行を実施。人材育成と学習交流産業の双方が推進される方策を考案。
- 地元住民ニーズの確認・検討を再度実施。地域ニーズとして、①外部交流、②地域若者担い手育成(直接的には青年会活動の担い手形成)の2点に絞り込み、当地域の自然・文化・人的資源を活用しながら相乗的に実施効果を高めていく戦略について具体的検討を行った。



実践研究1

高校・青年会・大学生による「ふるさとキャンプ活動」の実施

- 室谷青年会、地元高校生、大学生の協同による地域資源学習・実践プログラム「室谷ふるさとづくりキャンプ」を試行実施。
- 地域資源を用いて地域内外の若者が取組むことができる食産品・体験プログラム等について検討。
- 都市部(豊島区生涯学習施設)でのPR活動と情報交換



実践研究内容2

「交流」・「担い手育成」を相乗的に実現するための地域資源の再調査と活用検討

- 室谷青年会、地域集落の高齢者の皆さんへのヒアリングと意見交換
- 源流資源(川・山・食・各種風習・伝統)に地域の若者がアクセスし、「交流」と「担い手育成」が相乗的実現を図るための教育カリキュラム、組織制度、プログラム構築を実施



成果

集落活性化の方策・仕組み構築に寄与するためのプログラムを構想

①交流プログラム

- ・里山プログラム
- ・溪流プログラム
- ・食プログラム
- ・伝統・文化・行事プログラム
- ・室谷体験おたのしみ企画

②担い手育成プログラム

- ・青年会に地域外部の若者ファン層の参画を促進する「準会員」導入等の制度改革実現
- ・地元高校における「地域学」カリキュラムとの連動の仕組みづくりの進展



2018年度より

これら要素を組み込んだ青年会・集落活動の計画立案が実現

川キャンプ、雪キャンプ、産品開発プロジェクトの事業化

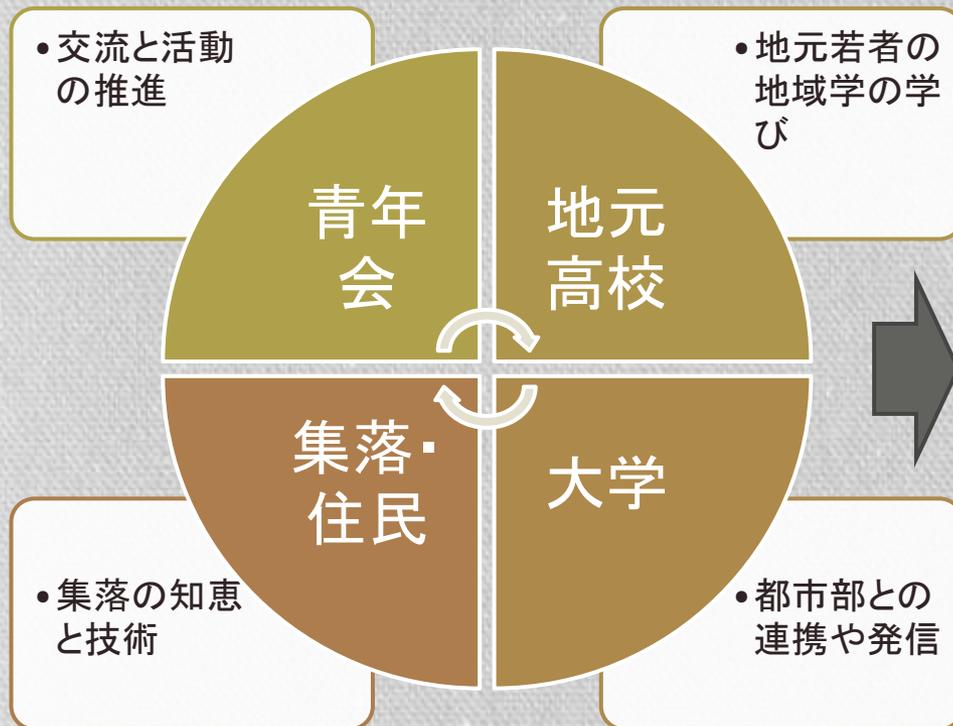


今後の展望

- 当研究によって開発した交流プログラムと担い手育成プログラムの継続的实施を行うことで、

青年会—集落—地域教育機関(高校)—大学

の継続的かつ効果的連携活動を若者の「地域回帰」の主流化をすすめ、集落活性化を実現する。



若者の「地域回帰」の主流化
と
集落活性化の実現

(3) 都市部における交流学習と発信活動によるまちづくり

区生涯学習講座「コミュニティ大学」
から生まれたエリアガイドボランティア
「としま案内人」と、大学生・留学生
との学びとまちづくり



駒込・巣鴨さらに隣接 の雑司が谷へも展開

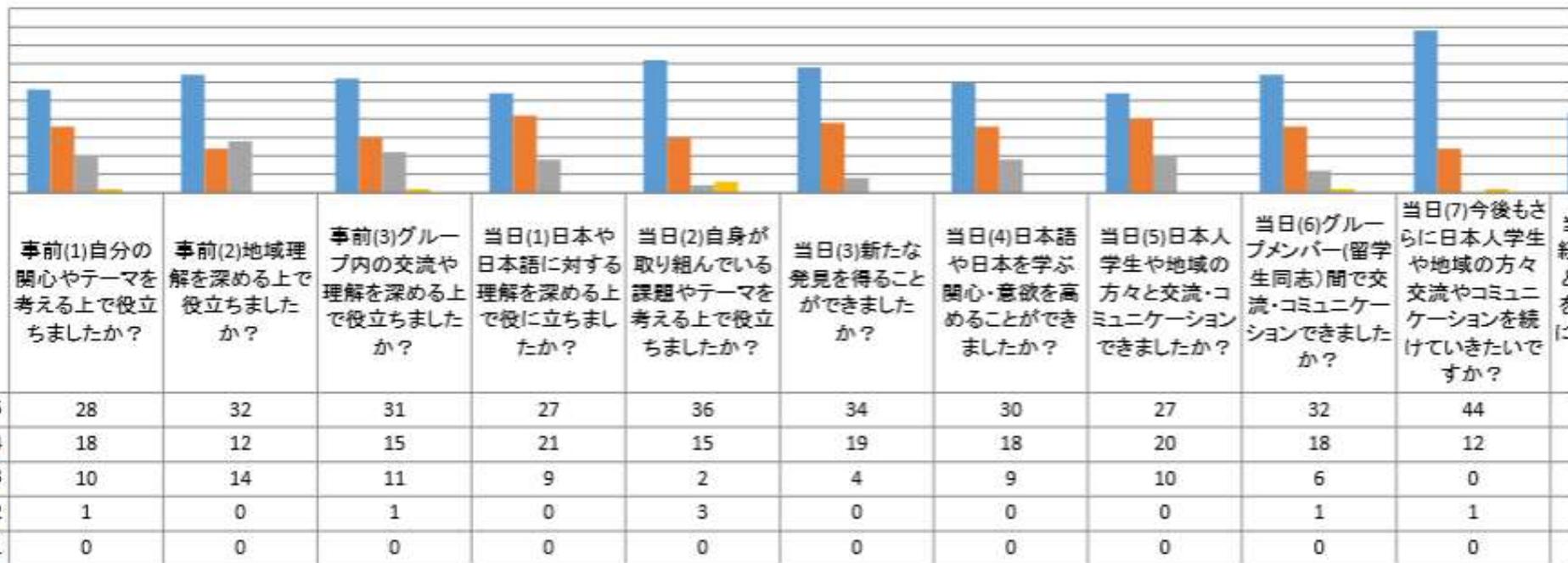


ふりかえりの学習・ 交流会の様子



早稲田大留学生集計結果2018年秋

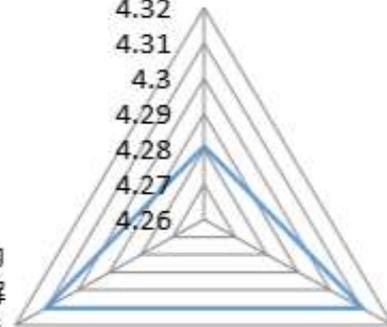
50
45
40
35
30
25
20
15
10
5
0



結果と考察

(1)自分の関心やテーマを考える上で役立ちましたか?

4.32
4.31
4.3
4.29
4.28
4.27
4.26



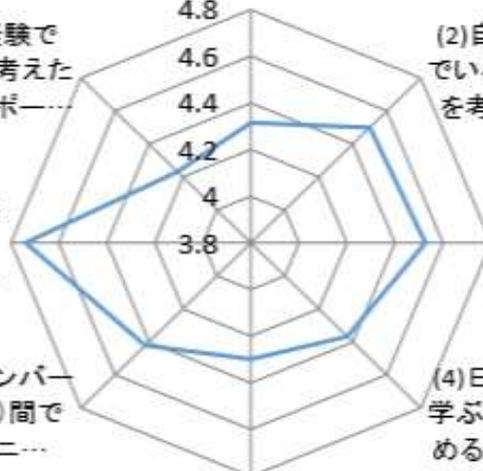
— 系列1

(3)グループ内の交流や理解を深める上で役立ちましたか?

(2)地域理解を深める上で役立ちましたか?

(1)日本や日本語に対する理解を深める上で役に立ちましたか?

4.8
4.6
4.4
4.2
4
3.8



(8)今回の経験で思ったことや考えたことを課題レポートにまとめましたか?

(2)自身が取り組んでいる課題やテーマを考える上で役立ちましたか?

(7)今後もさらに日本人学生や地域の方々との交流やコミュニケーションを続けていきたいですか?

(3)新たな発見を得ることができましたか?

(6)グループメンバー(留学生同志)間で交流・コミュニケーションを深めることができましたか?

(4)日本語や日本を学ぶ関心・意欲を高めることができましたか?

(5)日本人学生や地域の方々との交流・コミュニケーションを深めることができましたか?

(4) 地域寺院を居場所としたコミュニティづくり活動「しゅりる」活動

- 寺院の日常的営み(お掃除と勤行)と、体験イベントを通じたふれあいと居場所づくりの取組







地方地域の寺院 でも実施





4. 社会教育と成人教育の視点からの考察

(1) 地域の日常の多様な領域に生起するボトムアップ型の学びがもたらす可能性

(2) 実学的視点からの方法原理・方法論研究、学習者特性への着目と配慮

1) 社会教育の方法原理からの示唆

- ① 自発学習の原理
- ② 自己学習の原理
- ③ 相互学習の原理
- ④ 生活即応の原理
- ⑤ 地域性の原理

2) 多様な学習と研究の方法

■ 学習方法

- ① 個人学習
- ② 集合学習 (集会学習・集団学習)
- ③ 少人数ディスカッション法
- ④ SL (Service Learning)
- ⑤ PBL (Project Based Learning)
- ⑥ CBL (Community Based Learning)

など、「段階的自立法」の原理に沿ったプロセス重視の発展的学習

■ 研究方法

- ① AR : Action Research 小規模社会実践と還元を伴う調査
- ② PAR : Participatory Action Research 研究者・住民等の関係者が相互に主体的に参加し、社会的試行を重ねながら行う協働的实践と成果還元を企図した調査。

3) 成人学習者の特性(ノールズの指摘から)

- ①成人は学習において自己主導性(自己決定性)を志向する存在
- ②成人の蓄積した経験は、学習の貴重な資源
- ③成人の学習動機は社会的役割や社会的発達課題から生じる
- ④成人学習では生活していく力やすぐ役立つ知識や技能が求められる。

4) 高齢者学習ニーズ(マクラスキーの指摘から)

- ① 対処的ニーズ
(高齢期生活に役立つ知識や技術)
- ② 表現的ニーズ
(活動それ自体に見出される喜び)
- ③ 貢献的ニーズ
(他者や地域のために活動し、周囲から認められたい)
- ④ 影響的ニーズ
(生活する環境に影響を与えたい)
- ⑤ 超越的ニーズ
(生理機能低下、社会的役割減少という中で、精神的に伸び続けたい)
- ⑥ 回顧的ニーズと人生のレビュー
(高齢期ならではの発達課題)※ローウィー

(3) 隣接する行動科学との連携

- ・コミュニティ心理学、文化人類学・民俗学、社会学、福祉学など

(※私見では、日本での場合、臨床系を志向する仏教学も関連するのでは)

- ・実践へのより一層の志向と地域社会づくりへ
「社会教育士」概念の登場

社会教育士について

「社会教育士」とは！？～学びを通じて、人づくりと地域づくりに中核的な役割をはたす～

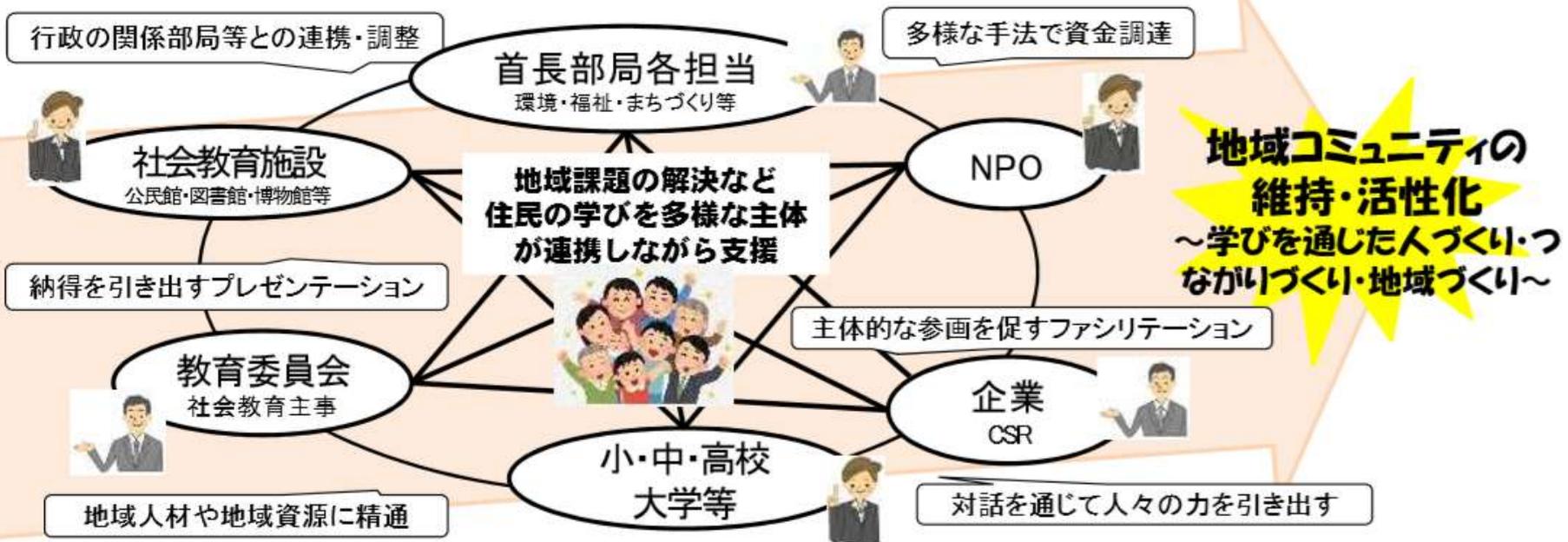
- 社会教育主事講習等の学習成果が、教育委員会事務局や首長部局、企業、NPO等の社会教育に携わる多様な主体の中で広く活用され、連携・協働して人づくりや地域づくりに活躍していくことを図るため、新設される称号

「社会教育士」に期待される役割

- NPOや企業等の多様な主体と連携・協働して、社会教育施設における活動のみならず、環境や福祉、まちづくり等の社会の多様な分野における学習活動の支援を通じて、人づくりや地域づくりに携わる
- 住民の地域社会への参画意欲を喚起する
- 住民の多様な特性に応じて学習支援を行う
- 住民の学習成果を地域課題解決やまちづくり、地域学校協働活動等につなげる
- 地域の多様な専門性を有する人材や資源をうまく結びつけ、地域の力を引き出す
- 地域活動の組織化支援を行い、地域住民の学習ニーズに応じていく



社会教育を担う多様な主体に社会教育士がいることでさらなる学習機会の充実とネットワーク化を推進！



5. 多様な領域との連携を促進するアセスメントとネットワークの重要性

地域の無理解・無関心(に見える)問題、地域(既存利害関係者)からの抵抗と反動を乗り越えるために

(1) 参加型教育アセスメントの実践

参加型地域教育アセスメント研究会による学習成果の可視化の試み

(2) 参加型教育ネットワークの構築

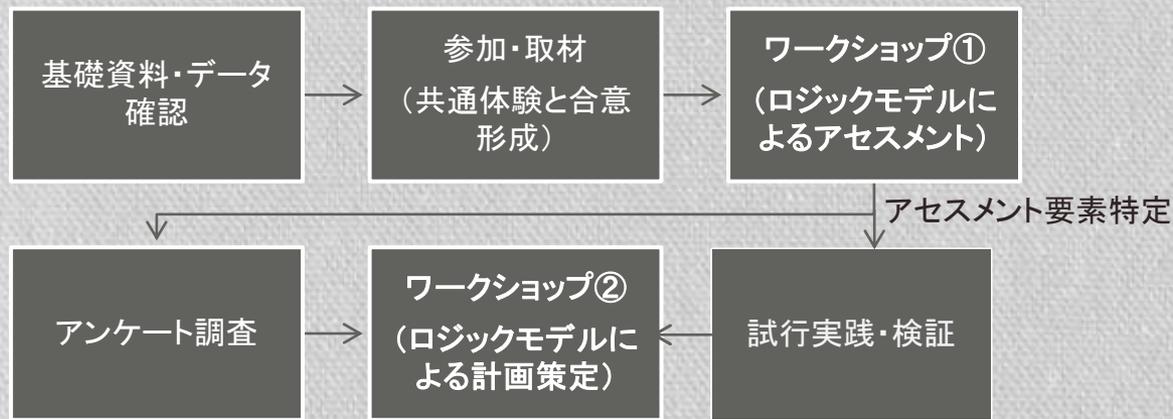
社会教育実習支援ネットワーク、日本社会教育士会・関連支援組織設立準備会による学習のための連携・協働づくりの試み

(3) 「地域回帰」志向の形成過程とその教育的要因の類型的・数値的解明に関する研究(科学研究費助成事業(若手B)学術研究助成基金 H29-31)

参加型教育アセスメントの視点と方法

ロジックモデルを用いた学習プロセスの可視化とカリキュラム設計の手順

1. 参加型教育アセスメントの全体プロセス

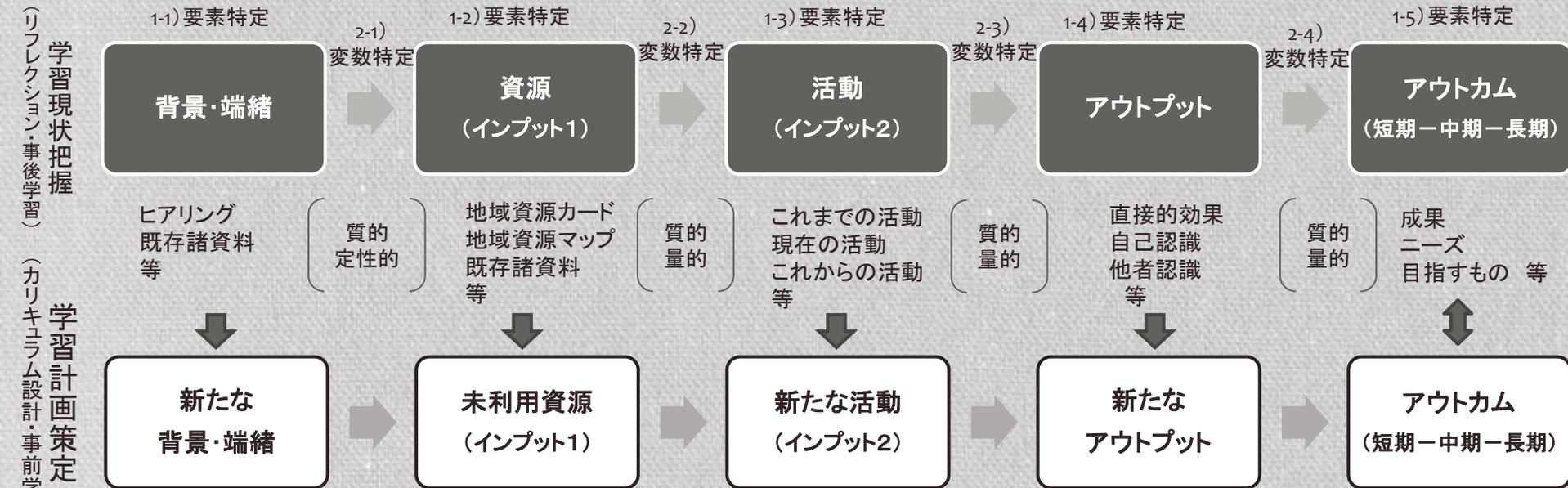


■ワークショップ・ヒアリング手順原則(例)
開かれた質問:1-1~5)要素特定
→ 閉じた質問:2-1~4)変数特定

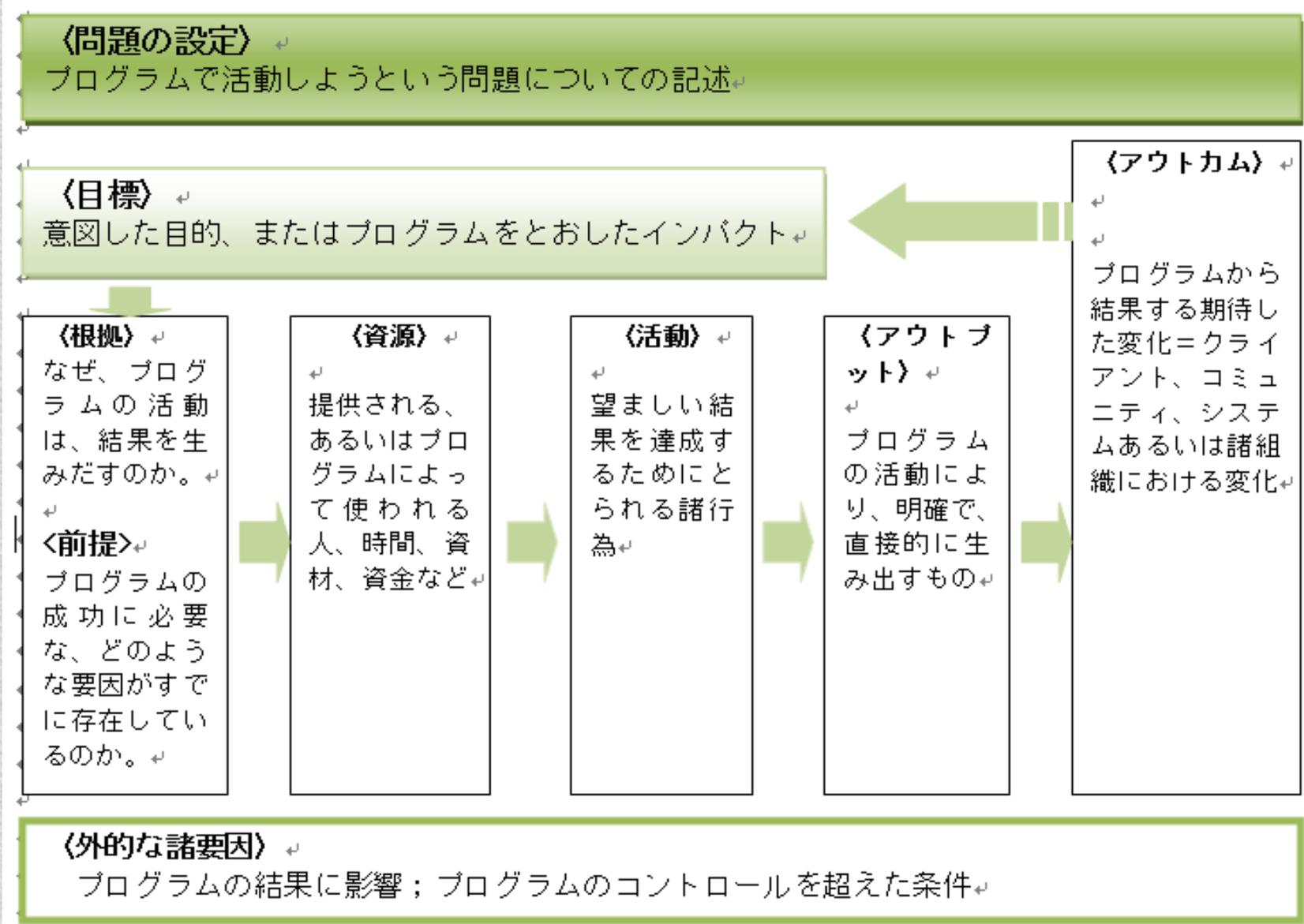
■ロジックシート記載凡例(例)
黒字:実施事項
赤字:必要事項
青字:計画事項 等

■既存手法の順応的活用(例)
地元学(参加型調査による可視化)
アンケート調査
試行実践・アクションリサーチ

2. ロジックモデルを用いたアセスメントワークショップ①・② ※アセスメント前提となる「仮説」(因果関係の予想)を皆で考えるワークショップ



ロジックモデルの諸要素



地域住民と参加型アセスメントワークショップ (岡山県矢掛町江良地区)



ワークショップによるディスカッションを通じて、自らの活動成果を言語化し可視化してプロセスを重視



得られたデータの取りまとめ、有効なアセスメント要素特定及び計測方法を考案し、次の活動づくりへといかしていく

高校生と参加型アセスメントワークショップ (岡山県立矢掛高校)



公民館・NPO関係者と参加型アセスメントワークショップ



ワークショップ成果をロジックモデルにより可視化 多様な主体が成果を認識し、次の展開へと巻き込む道筋を検討

参加型教育アセスメントWSロジックモデルシート

1. これまでのプログラム要素			
①インプット(資源)	②インプット(活動)	③アウトプット(効果)	④アウトカム(成果)
<ul style="list-style-type: none"> 福祉施設の方々(原田さん)、矢掛放送、山陽新聞、役場 市民団体(親の会) イバラデニム メンバー(4名の高校生)+社会人(当時3年、今社会人) イバラ高校(授業・機会提供) →家政科、園芸科 	<p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・YKGすみれ・子供・親(障害有・無)交流学习 ・かしらおめんづくり ・ソースづくり ・お皿づくり(半年) ・マイプロ、中学生から始めたもの ・イバラデニムによる同世代へのPR 「あいたいプロジェクト」(デニム) デニムで高品を開発し、売って、地域活動に寄付する (1)スマホケースづくり →方向転換 →(2)夏祭りにデニムうちわ(広めて) →(3)災害、方向転換(支援で) →(4)子育て親子支援、子供に楽しんでもらう →小物ブースを体験する(出店)(冬秋) ↑イバラ高校で線から作成するため訪問も ※苦労した点は時間的制約 	<p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コイプロ・人前で話せるようになった ・プレゼンを考えるため活字での表現が向上した ・電話での話(コミュニケーション能力) ・地域に対する認識変え、好きになった 	<ul style="list-style-type: none"> ・キープキャンパス、交友関係豊かになった。 ・司会進行が好きになった ・与えられる学びから自分で学ぶということを通じて、自分で動いて当事者意識が高まった(意識化することができた) →他に關心を持てる ・見てくれた人にインパクトを感じさせることができる ・人とのよい相互影響をおこすことができる
		<p>他に、留学生等との地域交流が上記のアウトプット・アウトカムに寄与したとのOB/OGからの発言有。</p>	
2. 新たなプログラム要素			
<ul style="list-style-type: none"> ・チーム夢限の取組 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の構想づくり、自分独自のイベント、紙(和紙的なもの) 		

参加型教育アセスメントWS口シックモデルシート

1. これまでのプログラム要素 岡山県矢掛町江良地区 2018年9月29日

岡山県 矢掛町江良地区 作業中1010

①インプット(資源)	②インプット(活動)	③アウトプット(効果)	④アウトカム(成果)
<p>江戸元氣会 会長 副会長 会計 事務局 顧問 農家ホームステイ京都から 工房吉野 磁器 ホームステイ中学生 若宮サロン(姓)高齢者の会 三つの地区 公民館 海 十五目会 23名 平均年齢40歳以下 消防団OB 消防団兼務 うどん屋 流しうどん 本陣 健康管理センター 100回 夜市(土用) 池(バス) 一級河川 筏下り 江良谷川公園</p>	<p>②インプット(活動) 1) ホームステイ ・竹細工 ・手芸 袋・タオルで動物(サロンでやっていることを一緒に) ・韓国管理センターにトレーニング ・釣り体験(池、海)(子ども達と) ・陶芸体験 ・筏下り ・うどん食 つくる ・大名行列見学 ・日本酒イベント ・地区内散策 ・がらん山登山、スポット巡り、寺院 ・芋掘り ・かき取り ・食教室(刺身)(日韓巻き寿司) ・バーベキュー ・神輿担ぎ ・うるぎさばき 2) ウェルカムパーティー ・大人教 120~130人 7年続く交流イベント ・ピクニック 岡大とのきっかけ 3) 各種体験 ・栗拾い 田植え・稲刈り 芋掘り ソーメン 神楽(備中)神輿担ぎ 4) 地元小学校 お国紹介 イングリッシュキャンプ 5) サロンで料理教室(巻かずし)ア ナゴ入り 6) 国際野菜畑 スラビアなど 7) その他の展開 ・授業参加の中で体験・歴史・朝市 ・ボランティア(災害)活動 ・田んぼ体験(子供達) 昼ごはん ・11月 秘密基地計画 社会教育事業としての展開</p>	<p>③アウトプット(効果) 1) リピーター 後から遊びに RJ(留学生)リピーターつながり深まる 2) 外の接点 興味・関心向上 3) 明るくなった子ども(積極性が出てきた) 4) 神輿が復活(65年ぶり) 5) 地区の外の受け入れ向上 地域の自然に受け入れ 暖かさを実感→地域の全体を知れた 他大学にも波及 →若者にも関心 6) 知名度が向上(江良が注目) 国際化実感 矢掛町全体 多様性を感じた 田舎のイメージが変化</p>	<p>④アウトカム(成果) 全国へ発信→世界一の田舎元気でやってきたい 交流で横のつながりをつくる ※神輿だけでも帰る 地元に残ろうかという気運を作りたい</p> <p>地域の絆形成 ヨソの周りの町村からも注目 野焼き アクセサリ ウラ基地のろしなどのイベント形成 成果はこれから</p> <p>取り組みを郷土愛につなげ、引き継いでいくようにしたい。</p>

2. 新たなプログラム要素

<p>起業(企業)同友会の協定が進みつつある 地域産業への波及</p>	<p>かかしプロジェクトコンテスト、イベント= 観光資源(県主)※ かかし祭り 気軽に来れるゲストハウスのなもの(交流拠点)(学生も参画) →(7地区民泊 3×7地区21泊)民泊 いわゆる婚活推進へのきっかけもつくりたい</p>		
--	---	--	--

ネットワーク構築の試み 社会教育実習支援ネットワークの創設

社義協と社会教育実習支援ネットワーク

全国社会教育職員養成研究連絡協議会（社義協）は、社会教育職員制度の拡充に向けた研究など各種の活動を進めてきました。これまでの成果を活かして、養成校と実習先（人材活用先）をつなぐ社会教育実習を基軸とした養成・研修・採用に役立つネットワークを構築しています。養成校のねらいや学生のニーズ、実習先の要望に応じて、効果的なプログラムをデザインしていきます。

「社会教育実習支援ネットワーク」サイト

<https://sites.google.com/view/shazissyunet>



協働による学生の主体的学びの創造

社会教育士の養成と実習

Learning by Doing



多様な学びを架橋する社会教育人材養成の高度化と実習先の活性化

社義協「社会教育実習支援ネットワーク」活動

① マッチング・研修

- 養成校－実習先のマッチング・調整支援
- 担当者研修の企画・提供

② モデル提供・実践

- 多様な実習モデルプログラムの提供・実践
- 「マッチングフェスタ（仮称）」等イベントの企画・実施

③ 研究・開発

- 事例研究による実習方法の研究・開発
- データ研究によるアセスメント（評価）の研究開発

本ネットワーク参加のメリット

- 実習先情報提供・マッチング支援
- 社会教育実習データベースの利活用
- 課程担当者・実習先担当者向けプログラムの提供
- 実習モデル・評価方法の開発と提供
- その他、課程運営全般に関する相談

【問合せ・連絡先】

全国社会教育職員養成研究連絡協議会（社義協）
 東京学芸大学 総合教育科学系 生涯教育分野 倉持研究室
 〒184-8501 東京都小金井市貝井北町 4-1-1
 TEL：042-329-7353
 E-Mail：shayosei@outlook.com
<http://syayoukyou.web.fc2.com/index.html>

社義協 社会教育実習支援ネットワーク

（養成校・大学関係者向けパンフレット）



【社会教育士とは】

国が定める社会教育主事養成課程（2020年4月施行）修了者に、「社会教育主事」資格に加えて、「社会教育士」の称号が与えられることとなりました。地域の教育・福祉・防災・環境・地場産業などの領域で、人々の学びの支援やネットワークづくりを通して人づくりや地域づくりに関わる役割を担います。



【養成課程のねらい】

- 課程運営を通じた大学の社会貢献・地域貢献
- アクティブラーニング・サービスマーケティングによる主体的に社会で生きる力を育成
- 社会に関わった学校づくりを支える基本的知識・能力の獲得
- 多様な領域（まちづくり・医療・福祉・環境・農業・アート・スポーツ・企業CSR等）で活かせるコーディネート力の育成



【カリキュラムの内容-実習の必修化】

ファシリテーター・コーディネーターとして学習を支援したり、多様な主体をつなぎ協働をすすめたりする「実践的能力」を養成する「生涯学習支援論」と「社会教育経営論」や、「社会教育実習」が必修となっています。



実習受け入れ側の声

実習生を受け入れることによって、改めて業務の見直しができ、担当職員
の学びになった。

実習受け入れ側の声

事業を大学生の新鮮な視点で力強く展開することができた。



【社会教育実習の例】

実習は社会教育士養成の核となるもので様々な方法、形態、内容で行うことができます。

- 公民館や児童館で来館者対応や事業企画
- 事業運営など一日の業務を5日間連続して体験
- 青少年自然の家主催の小学生を対象とした6泊7日のキャンプ活動に参加
- NPOや企業と連携して毎月実施する異世代交流事業を企画・運営



【実習の方法】

- 施設や活動の参観実習
- 実習先が提供するプログラムへの参加・体験
- 実習先と大学が協働してプログラムを開発するプロジェクト型



【実習先】

- 社会教育・生涯学習施設
- 地域学校協働活動
- 教育委員会事務局、首長部局
- NPO・ボランティア団体
- 企業など



学生の声

理論と実践をつなげてとらえることができ、資格を活用する仕事の具体的なイメージがつかめた。



学生の声

いろいろな人と交流し活動することで自信が
つき、コミュニケーション力が向上した。



社会教育士会・関連支援組織設立へ向けた動き

全国の社会教育・生涯学習研究者・活動家が結集しつつある



おわりに. コミュニティづくりの学習拠点創造に向けて

- 相互作用による学びと支えあいによる実践に向けた援助
- 多世代にわたる学びの拠り所となる場と営みの推進
(単なる「サービス」提供とは異なる機能と役割)

- 地域の自然・文化・伝統に根ざした中に学びをいかに見出すか。
- 日々の暮らしの中で、地域に根ざしながら、交流し、学び、相談しあい、学んだ成果を実践することができるコミュニティの場をいかにして創り出すか。